

## 児童教育学科

学科長

田 中 聡

TANAKA Satoshi

### 2021 年度 Reggio Emilia (Italy) with E-learning スタディプログラム

本学では「国際教育フォーラム」という国際教育研究センター・児童教育学科共催で実施していたフォーラムが2019年度まで14回実施されていた。本学の海外教育研修・留学関係で協定を結んでいた、交流を深めていたりする大学や教育機関よりゲスト講師やシンポジスト等をお迎えし、我が国の学校園の教員、保育者、一般市民等にも広く開かれたイベントを実施し、グローバルな視点でこれからの教育を考えるというフォーラムであった。

ところが2020年度は全世界に大変な混乱を巻き起こしたCOVID-19の影響で、この伝統あるフォーラムも中止・自粛を余儀なくされたのである。もちろんこの未知の感染症への対応としてはやむを得ないわけであったが、伝統ある本学の「国際教育フォーラム」が中止となったことは誠に残念であった。

2021年度もCOVID-19の猛威は収まらず、海外留学はもちろんのこと、まだまだ海外よりゲスト講師をお招きしたり、国内で多くの人々が一処に参集してのイベントを実施したりすることは憚られたのが現実であり、「国際教育フォーラム」の従前の形での実施は困難であった。しかし、最新の海外の教育・保育事情を理解し、こういった視座から我が国の教育・保育を再考するという機会は何とか持ちたいという本学の熱意から、この「国際教育フォーラム」に替わるイベントとして、児童教育学科教員の森真理先生の多大なご尽力により、森先生自ら具体的なご計画と運営を行っていただくこととなり、表記「Reggio Emilia (Italy) with E-learning スタディプログラム」実施の運びとなったのである。

このプログラムの趣旨・内容・方針としては次のようにまとめられる。

- ・世界から注目され続けるレッジョ・エミリア市の乳幼児教育の生活・哲学と実践に学び、子どもの最善の利益を保障する乳幼児教育保育の実践へと繋げ深める。
- ・レッジョ・チルドレンとの協定締結の「プレ・プログラム」とする。
- ・イタリアの歴史・文化・芸術を学び、感性を磨き、多様性・異文化理解へと視野を広げる。

この趣旨・内容に共鳴し、受講を申し込んだ院生・学生は、院生3名、4年生12名、3年生11名、2年生2名、1年生3名の、合計31名に及んだ。また、今回の、レッジョ・エミリア市での取り組みを、オンライン講習等のICT活用により安心・安全に深く知る機会となるということで、本学教員からも相当数の参加者があった。

「E-learning スタディプログラム」としては、10/6(金)、10/29(金)、11/12(金)、12/10(金)の4回が、対面とZOOMでのハイブリッドで行われ、そして、その後アトリエリスタである津田純佳さんによるアトリエ体験、イタリア食文化に関するイタリア人シェフによる講話と体験、そして、全体の振り返りと4回に渡る講座が実施され、計8回のReggio Emiliaにおける教育・保育理念を理解するための有意義なプログラムとなった。

院生、学生からも都度の振り返りの中で「レッジョ・エミリアでは、子ども、教員、保護者が一体となり探求や共有をして生き生きとした学校づくりがされていた」、「これからも深く学んでいきたい」、「貴重なお話をありがとうございました」等々の満足度の高さが伺える意見・感想が出された。

上記のようなコロナ禍にあって、大変有意

義なプログラムとなった立案者であり、また「E-learning スタディプログラム」と本プログラム全体のまとめ・振り返りの進行を担ってくださった森真理先生に深く感謝する次第である。